

卒業論文講評

小関 隆志

近藤 菜海「プロジェクト資金調達におけるクラウドファンディングの役割と可能性」

近藤さんは、資金調達を通じた地域活性化の一手法として、クラウドファンディングをテーマに選びました。

当初、近藤さんはサッカーを通じた地域活性化というテーマで論文を準備していましたが、途中でテーマを切り替えることになり、最終的にクラウドファンディングをテーマに決めてから論文を提出するまでに、あまり時間の余裕がありませんでした。インタビューの結果をもとに考察を深めるなど、テーマを深掘りするのはやや難しかったようですが、それでも限られた時間内に事例研究としてインタビューを行うなど努力した様子がうかがえます。

この論文は、地域活性化とクラウドファンディングという2つのキーワードを結びつけた点に、時代の流れに沿った独自の発想があると思います。日本では近年、地域限定の小規模なクラウドファンディングサイトが各地に設けられ、地域活性化の一つのツールとして期待が高まっているからです。

クラウドファンディングはしばらく前に、新しい画期的な資金調達手法として衆目を集めました。必ずしも夢のような“魔法”や“万能薬”ではなく、「達成できるとは限らない」「大規模な資金調達には向かない」といった限界も見えてきています。

そうしたなかで、クラウドファンディングさえやればうまくいくといった過大な期待をかけるのではなく、クラウドファンディングを通じて地域活性化のために何をなすべきか、取り組むべき課題は何かを冷静に考えようとする近藤さんの姿勢は、とても好感が持てました。